

所属	物質工学科	職名	教授	氏名	上松 仁	記載年月日 (和暦)	平成28年4月1日
<b>I 主な教育活動</b>							
<b>I-1 教育実践上の主な業績(過去3年)</b>							
(平成24年度)公開講座、オープンキャンパス、体験入学 (平成23年度)学会発表指導(平成23年度東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会)、公開講座、オープンキャンパス、体験入学 (平成22年度)学会発表指導(第13回化学工学会学生発表会(秋田大会))、公開講座、オープンキャンパス、体験入学							
<b>I-2 クラブ指導における主な業績(過去3年)</b>							
<b>I-3 その他の該当事項(過去3年)</b>							
<b>I-4 校務担当(該当年度も含め過去3年)</b>							
(平成27年度)物質工科学科科長 (平成26年度)物質工科学科5年学級担任							
<b>I-5 担当クラブ等(該当年度も含め過去3年)</b>							
(平成28年度)ソフトテニス部、山岳部 (平成27年度)ソフトテニス部、山岳部 (平成26年度)ソフトテニス部							
<b>II 主な研究活動(著書・論文等の名称)(過去7年以上・専攻科様式第5号形式とする)</b>							
著書・論文等の名称	単著 共著	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名(共著のみ)			
<b>II-1 (学位論文)</b>							
<b>II-2 (著書)</b>							
1. 木を食料にする	共著	2012年10月	(財)日本木材総合情報センター「木材情報」、11-16、(2012年10月15日)	上松仁、高橋武彦、渡邊潤			
2. 微生物変換によるL-2-アミノアジピン酸とL-ピベコリン酸の製造	共著	2010年7月	シーエムシー出版「キラル医薬品・医薬中間体の研究・開発」、89-100、(2010)、(ISBN4-88231-511-4C3043)	監修 大橋武久、 著者 上松仁 他			
3. A Modular Approach to Biotransformation Using Microbial Cytochrome P450 Monooxygenase	共著	2007年	WILEY-VCH Verlag GmbH & Co. KGaA, Weinheim, Modern Biooxidation, Enzymes, Reactions and Applications, 177-192 (2007), (ISBN 978-3-527-31507-9)	Akira Arisawa, <u>Hitosi Agematu</u>			
4. 新規複合微生物系による物質分解システム	共著	2006年7月	シーエムシー出版「複合微生物系の産業利用と新産業創出」、第III編第1章4節、(ISBN4-88231-579-3C3045)	監修 倉根隆一郎、著者 原園幸一、上松仁、渡辺吉雄			
<b>II-3 (学術論文)</b>							
1. Characterization of <i>Massilia</i> sp. BS-1, a Novel Violacein-producing Bacterium Isolated from Soil	共著	2015年	ISTS 2015 5th International Symposium on Technology for Sustainability AUG 3-11 73 (2015)	Mamoru Washiya, Kevin Bounoua, Aleksii Saariranta, <u>Agematu Hitosi</u>			
2. Cloning and sequence analysis of cellulase genes from cellulolytic streptomycetes and heterologous expression in <i>Streptomyces lividans</i>	共著	2013年	The proceedings of ICMR 2013 AKITA (Nov. 20-22, 2013)	Tomotsune, K., Kasuga, K., Tsuchida, M., Kobayashi, M., <u>Agematsu, H.</u> , Ikeda, H., Ishikawa, J., and Kojima I.			
3. Isolation and Characterization of a Novel Violacein-producing Bacterium, <i>Massilia</i> sp. BS-1	共著	2011年	Biosci. Biotech. Biochem., <b>75</b> (10), 2008-2010 (2011)	<u>Hitosi Agematu</u> , Kazuya Suzuki, and Hiroaki Tsuya			
4. Hydroxylation of Oleanolic Acid to Quereraric Acid by Cytochrome P450 from <i>Nonomurae recticatena</i>	共著	2006年	Biosci. Biotech. Biochem., <b>70</b> (9), 2299-2302 (2006)	Yoshikazu Fujii, Shinji Hirose, Tadashi Fujii, Naoki Matsumoto, <u>Hitosi Agematu</u> , and Akira Arisawa			
5. Hydroxylation of Testosterone by Bacterial Cytochrome P450 Using the Escherichia coli Expression System	共著	2006年	Biosci. Biotech. Biochem., <b>70</b> (1), 307-311 (2006)	<u>Hitosi Agematu</u> , Naoki Matsumoto, et al.			
6. Production of Human Metabolites of Cyclosporin A, AM1, AM4N and AM9, by Microbial Conversion	共著	2005年	J. Biosci. Bioeng., <b>99</b> (4) 390-395 (2005)	Kazuo Ohta, <u>Hitosi Agematu</u> , Tomoya Yamada, et al.			
<b>II-4 (研究紀要)</b>							
1. 真菌による稲わらリグニンの分解(第1報)	共著	2010年2月	秋田工業高等専門学校研究紀要第45号、73-79、2010	津谷浩晃、小野嗣嗣、上松仁			
2. <i>Massilia</i> sp. BS-1が生産する青紫色素、秋青	共著	2010年2月	秋田工業高等専門学校研究紀要第45号、80-86、2010	鈴木一也、上松仁			
3. 微生物変換によるインジゴの生産	共著	2009年2月	秋田工業高等専門学校研究紀要第44号、75-80、2009	高橋巧佑、上松仁			
<b>II-5 (国際学会等発表) 予稿集、会議論文集があれば付記のこと</b>							
Characterization of <i>Massilia</i> sp. BS-1, a Novel Violacein-producing Bacterium Isolated from Soil	共著	2015年 (Malaysia)	ISTS 2015 5th International Symposium on Technology for Sustainability AUG 3-11 73 (2015)	Mamoru Washiya, Kevin Bounoua, Aleksii Saariranta, <u>Agematu Hitosi</u>			
<b>II-6 (国内学会等発表)</b>							
1. 木質バイオマスを原料とした抗生物質カサガマイシンの発酵生産	共著	2013年3月25日	2013年度日本農芸化学会大会講演要旨集(2B21a07)	春日和、友常久実子、上松仁、他			

2. アミノグルコシド系抗生物質ミノサミノマイシン生合成遺伝子クラスターの解析	共著	2012年3月24日	2012年度日本農芸化学会大会講演要旨集(3B18a03)	春日和、小嶋郁夫、上松仁、他
3. 土壌からのセルラーゼを生産する放線菌の探索	共著	2011年11月20日	平成23年度東北地区高等専門学校専攻科研究発表交流会(T11-P70)	村井織羽、上松仁
4. 微生物変換によるインジゴの生産	共著	2011年3月5日	第13回化学工学会学生発表会(秋田大会)講演要旨集F03	加藤和馬、高橋巧佑、上松仁
5. Massilia sp. BS-1のピオライン生産	共著	2010年10月28日	第62回日本生物工学会大会講演要旨集2P-2131	上松仁、鈴木一也、津谷浩晃
6. 異種微生物によるカスガマイシンの恒常的生産	共著	2009年7月16日	2009年度日本放線菌学会大会講演要旨集P-49	春日和、小嶋郁夫、上松仁、他
7. Massilia sp. BS-1が生産する青紫色素	共著	2008年8月27日	第60回日本生物工学会大会講演要旨集1p18	鈴木一也、津谷浩晃、上松仁
8. 大腸菌P450発現ライブラリーによる水酸化	共著	2005年3月1日	2005年度日本農芸化学会大会講演要旨集(ポスター)	上松仁、松本直樹、他
<b>II-7 (解説・総説)</b>				
1. 木を食料にする	共著	2012年10月	木材情報、11-16、10月号(2012)、(財)日本木材総合情報センター	上松仁、高橋武彦、渡邊潤
2. 細菌由来シクロムP450反応アレイの構築と微生物変換スクリーニングへの応用	共著	2006年4月	バイオインダストリー(シーエムシー出版)、第19巻、第4号、40-47(2006)	有澤章、上松仁
<b>II-8 (特許)</b>				
1. メラニン産生抑制剤	共著	2013年3月20日	特願2013-74373	池本敦、上松仁
2. 廃水処理装置、カラム、及び廃水処理方法	共著	2012年9月18日	特願2012-204244	金主鉉、上松仁
3. 家畜飼料の製造方法及び家畜飼料	共著	2010年11月16日	特願2010-256061	上松仁、他
<b>II-9 (その他)</b>				
<b>III 学内外の主な競争的資金の獲得(採択されたものに限る)(過去7年)</b>				
<b>III-1 競争的資金の名称</b>				
(平成27年度) 科研費(挑戦的萌芽研究)ルーメン微生物を用いた新規ルーメンミメティク有機酸生産システムの開発(H27~H28)				
(平成24年度) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業研究(H24年度、農水省)、スギを微粉砕してセルラーゼ糖化率を高めた木質飼料ペレットの開発				
(平成23年度) 秋田県フィージビリティスタディ支援事業(研究代表)、木粉を乳酸発酵した新規木質サイレージの製造に係る実現可能性調査				
(平成23年度) 秋田県重点分野研究開発プロジェクト事業(研究分担)、木材を微粉砕して原料とする牛の木質飼料ペレットの研究開発のためのプロジェクト(H23~H25)				
(平成22年度) 秋田県研究開発シーブ育成支援事業(研究代表)、木材を原料とする家畜飼料の製造に係る基盤研究				
(平成22年度) JST探索タイプ(研究分担)、稲いもち病用農薬カスガマイシンの発酵生産に未利用資源のセルロース系バイオマスを利用するための技術基盤の確立				
(平成22年度) 環境省地球温暖化対策技術開発等事業(研究分担)、地域分散型バイオエタノール生産のための省エネ低コスト固体連続並行複発酵に関する技術開発				
(平成20年度) 科研費基盤研究(C)(平成20~22年度、研究分担)、抗イモチ病用カスガマイシンの大腸菌による発酵生産と新規ハイブリッド抗生物質の創製				
(平成19年度) 秋田工業高等専門学校交付金(学科横断型プロジェクト、研究分担)、バイオマス利用技術の開発				
<b>IV 学会等及び社会における主な活動</b>				
<b>IV-1 所属学会(記載時)</b>				
(平成22年度) 日本生物工学会、日本農芸工学会、日本放線菌学会				
<b>IV-2 外部団体からの受賞および表彰(過去7年)</b>				
<b>IV-3 外部委員会の委員等(過去3年)</b>				
<b>IV-4 その他の該当事項(過去7年)</b>				
<b>V 担当教科(該当年度を含め過去3年)</b>				
<b>V-1 専攻科(該当年度も含め過去3年)(生産:生産システム専攻、環境:環境システム専攻)と略記</b>				
(平成23年度) 微生物工学(専2環境)、環境システム工学特別研究(専1環境)、特別研究(専1、2環境)				
(平成24年度) 微生物工学(専2環境)、環境システム工学特別研究(専1環境)、特別研究(専1、2環境)				
(平成25年度) 微生物工学(専2環境)、環境システム工学特別研究(専1環境)、特別研究(専1、2環境)				
<b>V-2 本科(該当年度も含め過去3年)(M:機械工学科, E:電気情報工学科, C:物質工学科, B:環境都市工学科)と略記</b>				
(平成23年度) 物質工学基礎(1C)、生物化学工学I-II(4C)、生物工学実験(5C、3C)、卒業研究(5C)				
(平成24年度) 物質工学基礎(1C)、応用微生物学(4C)、生物化学(3C)、生物工学実験(5C、3C)、卒業研究(5C)				
(平成25年度) 物質工学基礎(1C)、応用微生物学(4C)、生物化学(3C)、遺伝子工学(5C)、医薬品工学(5C)、生物工学実験(5C、3C)、卒業研究(5C)				